

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・改元、10連休、人気アイドルのコンサートなどの特殊要因が重なったことに加えて、気温が高めに推移したこともあり、国内観光客が20%以上増えた。売上は前年比122%、一昨年比131%となった。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・5月に入り、気温が上昇し、天候にも恵まれたことから、数か月ぶりに来客数が前年を上回った。買上点数も3%以上増加し、客単価も2%以上上昇するなど、景気は上向きに推移した。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・気温が高めで推移したことで、来客数が回復しており、消費動向も上向いている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・好天が続いたことで気温型商材の販売量が上昇している。また、一時的な影響だが、前年はたばこ値上げ後の売上減少がみられたため、その反動増が売上増加につながっている面もある。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・前年と比べて来客数が増加している。また、客単価もアップしており、来客数の伸び以上に売上が回復している。また、前年と比べて気温が高く、天候にも恵まれていることから、飲料水やアイスの売上の動きが良くなっている。きっかけがあれば購買する力が客に出てきている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ランチ、ディナー共に売上予測を10%ほど上回っていることから、景気はやや良い。北海道ふっこう割が終了したこともあり、ゴールデンウィーク直後は客足が一気に遠のいたが、3週目以降はじわじわと観光客が増えてきている。客からは、料金の高いゴールデンウィーク前後の旅行を避けたいとの声が上がっており、こうした特需が売上にも貢献している。外国人観光客はやや少なかったが、中国以外の国、地域から訪れる客が増えている。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今年のゴールデンウィークが10連休だったこともあり、期間中の来客数は前年比125%となった。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は個人予約客、国内の報奨旅行客のいずれも好調に推移した。芸能関係のコンサートイベントもプラスに寄与した。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが10連休だったこともあり、期間中は観光客が増加し、当地の観光施設は大変混雑していた。その後も雨がほとんど降らなかったことから、芝桜やチューリップなどの花観光が好調に推移した。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信サービスの新料金プランの導入に伴い、都市部での来客数が大幅に増加している。プラン変更の際に端末を買換えたり、メディア系サービスに加入する客も増加している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・天候要因による影響もあり、ここ数か月の利用者数は前年を上回って推移している。10連休となったゴールデンウィーク期間中は、一般観光客が増加したことに加えて、クルーズ船の寄港が増えたことで、これまでにないほど利用客が増加した。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・例年、5月のゴールデンウィーク後は売上が落ちる傾向にあるが、今年は10連休という超大型連休となったにもかかわらず売上の落ち込みがみられなかった。売上も前年から5%程度増加している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが10連休となったことから、前年と比較して観光客が大幅に増加している。一方、道内の漁獲高が減少していることが懸念材料である。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客がますます価格に敏感になっており、消費税増税に対する意識が強まっていることがうかがえる。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年、5月は郊外からの客や道内外からの観光客が増加し始める時期であり、当商店街への来街客も徐々に増加する傾向にあるが、今年は増加の兆しがみられない。ゴールデンウィーク直後から来街客が減少しており、全体として悪い状態で推移している。	

百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数は前年よりも増えているが、買上率が低下している。外国人観光客による売上は伸びているが、日本人による売上は苦戦している。
百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・国内客や道内客の減少を外国人観光客の増加でカバーする状況が続いている。国内客の消費は決して好調とはいえず、客単価もマイナス傾向となっている。外国人観光客頼みの構図は変わっていない。
百貨店（役員）	競争相手の様子	・3か月前に競合店が閉店したが、その影響が今一つつかみきれず、不透明な状況のまま推移している。
百貨店（営業販売担当）	販売量の動き	・来客数は前年並みで推移しているものの、ゴールデンウィーク明けの消費が停滞しており、買上客数が上向いてこない状況が続いている。
スーパー（役員）	お客様の様子	・ゴールデンウィークの10連休で客が金を使っていることから、今年は例年以上にゴールデンウィーク後の節約志向が強かった。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・衣替えをした時に買い控えをしていた客層に動きがみられた。ただし、必要な商材だけを求めることが多く、よく売れたのも低単価商材が中心であった。
家電量販店（店員）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク期間中は、天候が良かったこともあり、郊外に出かける客が多く、客の来店が夕方に集中した。また、5月後半は猛暑の影響でエアコン、扇風機などを買い求める客が増え、今までにないほどの来客数がみられた。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・店舗での販売台数も、会社全体での販売台数も、前年と比べて増加している。消費税増税を控えての駆け込み需要が顕著に表れてきている。今後2～3か月はこうした動きが続くと期待している。
自動車備品販売店（店長）	単価の動き	・来客数は前年並みであったが、タイヤの販売量が前年比90%と高単価商材が伸び悩んだ。車両販売については新車よりも中古車が売れていることで客単価が下落している。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格に大きな変化がみられないため、景気は変わらない。
高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・例年、5月中旬以降は上旬の反動がみられるが、今年はそうした動きがみられなかった。平日のランチは観光客、サラリーマンで席が埋まり、週末は家族連れの観光客、地元客を中心に好調が続いている。中にはランチとディナーで1日に2回来店した客もみられた。最終的に売上は前年を40%上回った。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの影響で来客数が増えた店舗もみられたが、地元客が中心の店舗は厳しい状況にある。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・客との会話の中で景気が良いという話は出てこない。需要や客単価も上向き傾向にはなっておらず、厳しい状態が続いている。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数が伸びてこないため、景気は厳しいまま変わらない。
タクシー運転手	来客数の動き	・今年はゴールデンウィークが10日間もあったため、5月のタクシー利用は大きく減少した。一方、ゴールデンウィーク後の週末に人気アイドルグループのコンサートが3日間行われたほか、観光客の利用も好調であったことから、タクシー1台当たりの売上は前年から約7%増加した。ただし、乗務員不足でタクシーの稼働率が悪いと、会社の売上は前年並みにとどまった。
タクシー運転手	販売量の動き	・5月はゴールデンウィークの影響もあり、若干ではあるが売上が増加した。ただし、景気自体は相変わらず悪い。
美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ3か月、来客数、売上に大きな変化はみられない。
美容室（経営者）	単価の動き	・年度替わりや改元の影響はほとんどみられなかった。地方部には影響のないことだと改めて実感した。
美容室（経営者）	来客数の動き	・5月は天候面での影響がみられた。10連休の余波もある。
商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク直後の来客数が10%以上落ち込むなど、5月の景気はやや悪い。

商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク明けから、最悪の消費状況が続いている。ゴールデンウィークで金を使いすぎたせいか人出がまばらであり、特に飲食店や飲み屋では大きな減収となっている。また、居酒屋やスナックではゴールデンウィーク後だけではなく、期間中も低調だったことから、事業危機に陥る店舗もみられるなど、深刻な影響が生じている。4月の統一地方選挙、ゴールデンウィークの弊害と2か月連続でマイナスとなっており、ばん回の難しい状況となっている。
商店街（代表者）	販売量の動き	・青果物の端境期に当たるため、景気はやや悪い。
一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・恒例の大型イベントなどがあった3か月前と比べると、客の動きが落ち込む時期ではあるが、今年は特に外国人観光客の動きが弱い。為替や米中の貿易摩擦の影響で中国景気が減速傾向にあることで、中国人観光客の動きが落ち込んでおり、そのことが売上にも響いてきている。
一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中の売上は好調だったが、ゴールデンウィーク後は苦戦している。10連休と休みが長かったため、客がいつもより金を使い、その分、酒類への消費を抑えているとみられる。
スーパー（店長）	販売量の動き	・改元によるお祝いムードもあり、令和元年初日を始め、ゴールデンウィーク10連休での消費は好調であった。一方、商材の値上げの影響もあり、母の日以降は販売量が伸び悩んでいる。
スーパー（店長）	販売量の動き	・10連休で金を使った影響なのか、前年までとは客の動向が大きく変化している。ゴールデンウィーク後半から母の日にかけて、来客数や客単価などが大きく落ち込んだ。
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・既存店の来客数が依然として前年割れしている。
コンビニ（店長）	単価の動き	・ゴールデンウィークが明けてから客の買い控えがみられ、その動きが月末まで続いている。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・業種によってばらつきがみられる。酪農や観光関連の動きは比較的良いが、漁業、建築・土木関連の動きが良くなく、受注量が減ってきている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・多少は消費税増税前の駆け込み需要が生じることを期待していたが、今のところ、そうした動きは残念ながらみられない。
乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・5月に大型イベントを開催したが、来客数が前年よりも減少しており、客の購買意欲が低下していることがうかがえる。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が多少みられるものの、3か月前と比べるとやや落ち込んでいる。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	それ以外	・ゴールデンウィークが史上まれにみる10連休という長期祝日となったことでマイナスの影響が生じ、売上に響いた。また、当地では、5月としては過去に例がないほど気温の高い日が続いており、そのことが客足に影響した。今後のばん回がとても難しい状況にある。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・ガソリンを始めとした物価の高騰、北海道ふっこう割の反動減などの影響があり、予約状況が伸び悩んでいる。
旅行代理店（従業員）	それ以外	・当社の2018年度決算の数値が悪かったことから、景気はやや悪い。ただし、ボーナスは出るようなので、最悪な状況とまではなっていない。
タクシー運転手	来客数の動き	・事前予約の取消しが発生したこともあり、観光関係のオーダーが前年から減少した。外国人観光客関係のオーダーもそれほど伸びがみられなかった。一方、イベント関係は例年並みであった。
タクシー運転手	販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中も、ゴールデンウィーク後も消費が冷え込んでおり、売上が上向く兆しがみられない。また、10日間という過度な長期休暇は、日本人の体質に合わず、生産性を低下させている。
タクシー運転手	競争相手の様子	・前月は前年よりも稼働状況が若干上向いたが、働き方改革関連法の施行に伴い年5日の有給休暇取得が義務化されたことで人件費が高騰し、赤字となっているため、設備投資まで資金が回らない状況にある。

		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームへの来訪客について、購入を前向きに考えている客が以前よりも減少傾向にある。
	×	スナック(経営者)	来客数の動き	・前月は統一地方選挙があったことで景気がやや悪かった。5月もゴールデンウィークが10連休となったことが影響し、景気は余り良くなかった。
	×	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・消費税増税後の政府による対策の内容が難しく、はっきりしないことに加えて、米中の貿易摩擦の影響があり、客のムードがとても悪い。
企業 動向 関連		-	-	-
(北海道)		金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・若干ではあるが、消費税増税を前にした駆け込み需要がみられる。
		建設業(従業員)	競争相手の様子	・新年度の発注建築工事が公示されたことで、建設各社が入札に向けて積算に追われている。
		建設業(役員)	受注量や販売量の動き	・新年度は災害復旧工事や農業土木工事の受注で好調なスタートを切っている。民間建築工事はフル稼働状態が続いている。
		通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・当地に限った要因であるが、防災リスクの低減、事業継続の観点から、情報資源などの経営資源の保護や管理に伴う案件が著しく増加しており、周辺の企業も含めて、情報通信業の景況感は上向いている。
		金融業(従業員)	取引先の様子	・10連休により外食、旅行、レジャー関連の支出が好調であるなど、個人消費に盛り上がりが見られた。民間設備投資も堅調に推移している。生産、輸出入は弱含みとなっているものの、道内の景気は3か月前に比べてやや良くなっている。
		その他サービス業[建設機械レンタル](総務担当)	受注量や販売量の動き	・5月の売上はほぼ前年並みで推移している。今後についても、北海道胆振東部地震の震災復旧工事、札幌やニセコなどの地区で民間建設工事が活発に推移すると見込まれることから景気はやや良くなっている。
		食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前と景気は変わらない。売上は前年比90%と横ばいでの推移となっている。
		家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・2020年の東京オリンピックに向けた請負物件の需要が増えつつある。ただし、東京オリンピック後の動向が懸念されることもあり、今一つ力強さに欠ける。
		輸送業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・北海道内の物流の動きは鈍い。その一方、紙パルプ関連工場においては、今後予定されている再編計画に向けて前倒し生産が行われていることから、倉庫保管は順調に推移している。
		広告代理店(従業員)	取引先の様子	・ゴールデンウィークが10連休となったが、地元百貨店や流通小売店などの売上が期待したほど伸びなかった。
		司法書士	取引先の様子	・長かった冬期も終わり、僅かではあるがマンションや住宅の新規建築がみられるようになってきた。ただし、不動産取引においては景気回復が実感できる状況ではなく、弱含みの状態から脱出できずにいる。
		コピーサービス業(従業員)	取引先の様子	・消費税増税に伴う駆け込み需要は余りみられない。企業のスタンスは慎重であり、必要最低限の設備投資にとどめている。
		その他サービス業[建設機械リース](支店長)	取引先の様子	・消費税増税を控えての設備投資意欲が感じられるものの、前回の増税時と比べると動きが鈍い。また、天候不順により農業に影響が生じることが懸念される。
		その他非製造業[鋼材卸売](従業員)	取引先の様子	・建設業界では今後も案件が控えているなど、順調であるが、加工量としては前年並み程度との見込みとなっているため、大幅な景気回復とまではなっていない。
		司法書士	取引先の様子	・地方部における不動産関連の業種は、依然として低調に推移している。特に今年はゴールデンウィークが10連休となり、稼働日数が少なくなったことが影響している。また、改元によりデータや書類関係の準備などが必要になり、予定していた取引が延期になるといった影響もみられた。
	×	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・5月の販売量は前年比マイナス6%であり、3か月前の2月のマイナス4%を下回っていることから、景気は悪くなっている。
雇用		-	-	-

関連 (北海道)	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ 求人の申込みは相変わらず増加傾向にあり、企業の人材需要が堅調であることがうかがえる。ただし、求人ニーズの高まりに伴い、市場に求人情報があふれていることから、より条件の良い求人を求めて、内定を辞退する人材も増えている。当社の道内各地の支店においても長期派遣のニーズが増えているほか、中途採用のニーズも事務系、営業系共に高いことから、地方の景気も堅調なことがうかがえる。
	求人情報誌製作会社(編集者)	雇用形態の様子	・ 中途採用において、非正規での募集が正社員と比べて僅かではあるが、微増傾向にある。
	求人情報誌製作会社(編集者)	採用者数の動き	・ 前年と比べて新規求人が減少している。自社ホームページからの採用や知り合いからの紹介など、採用手法が多様化していることが要因とみられる。一部ではあるが、外国人雇用への切替えを行っている企業もみられる。
	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・ 正社員、新卒、アルバイト、パートなど、どの雇用形態においても、応募数の減少傾向が続いている。募集が集まりやすい傾向にあるのはシニア層だけとなっている。こうした状況から、募集、採用コストに対する企業の考え方が今までよりもシビアになっている。採用ニーズは底堅いが、コストとのバランスが重視されるようになってきている。
	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・ 求人の申込数はピークだった3～4月に比べると落ち着いてきているものの、相変わらず求人ニーズは高い。ただし、求人を掲載しても反響が出にくい時期になってきたため、掲載を見送る傾向が強くなっている。取引先から、人さえいれば、もっと強気の会社運営ができるのという声を聞くことも多い。
	新聞社[求人広告](担当者)	周辺企業の様子	・ 小売などの流通業において、売上の伸びが鈍化しているという話を聞く。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・ 4月の有効求人倍率は1.07倍であり、前年を0.06ポイント上回り、9年2か月連続で前年を上回っている。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・ 新規求職者数が2か月連続で減少していることから、有効求職者数の増加割合は低下傾向にある。一方、新規求人数は4か月連続で増加したことで、有効求人数も増加しているが、ほぼ前年並みの増加割合だったことから、有効求人倍率が10か月ぶりに1倍を下回り、前年並みの0.98倍となった。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・ 4月の有効求人倍率は1.05倍であり、前年を0.05ポイント上回り、引き続き高い水準で推移している。
		*	*
x	-	-	-